

日本農業気象学会 2011 年度第 2 回理事会議事録

日時：2011 年 6 月 1 日（水）13:00～17:00

場所：東京大学農学部 7 号館 A 棟 7 階 717 号室（東京都文京区弥生 1-1-1）

出席者：岡田（S）、大政、小林、五十嵐、荊木、小沢、菅野（S）、北野、中屋、林（陽）（S）、
廣田（S）、富士原、町村、松岡、松島、皆巳、横山、吉本

欠席者：青木、黒瀬、佐々木、菅谷、林（真）、平野

（S）はスカイプによる参加

【議事録確認】

1. 2011 年度第 1 回理事会議事録報告（資料 1）

メール会議にて確認済みにて、承認された。

【報告・連絡事項】

1. 2010 年度評議員会議事要旨（資料 2）

2. 2011 年度総会議事要旨（資料 3）

報告のとおり承認された。

3. 編集委員会報告（資料 4）

松岡編集理事より、「Journal of Agricultural Meteorology」「生物と気象」の編集状況、および若手研究者育成を目的とする学生投稿制度の開始について報告された。オンライン投稿審査システムは J-Stage3 に移行予定であり、「生物と気象」は当面紙媒体でのやりとりが必要であるため、メール等を利用したシステムを構築する予定である。また、ISI 登録に向けたスケジュールを次回編集委員会で議論する予定である。

4. 学会賞の賞牌について（進捗状況）

五十嵐理事より、新しい賞牌の制作状況について報告された。藤井先生、高倉名誉会員、岡田会長らとの打ち合わせの結果、今年夏頃を目途に完成の見込みである。現在の在庫は 2 個であり、過去の寄贈品は楯を付けるなど細工が必要である。

5. 日本地球惑星科学連合第 4 回学協会長会議報告（資料 5）

岡田会長の代理で出席した林（陽）理事より報告された。連合会長が学協会と共同で発する東日本大震災に関する共同声明案に関しては、当学会でもメール理事会等により意見をとりまとめて、反映させていくことを確認した。

6. 震災復興に関する取り組みについて（資料 6）

岡田会長より、震災復興に関する取組の一環として、東日本大震災復興支援ホームページを荊木理事の協力で立ち上げた旨報告された。長期的な視点で情報を発信していく予定。積極的に利

用してほしい。

7. 佐藤忠良先生ご逝去について

吉本理事より、佐藤忠良先生ご逝去につき、学会名で弔電を送った旨報告された。

8. 2011 年度鹿児島大会報告

2011 年度鹿児島大会実行委員長の北野理事より報告された。東日本大震災の影響で参加者のキャンセルが多かったが 190 名の参加があった。キャンセル者への懇親会費の払い戻し、講演要旨集の販売等の対処により、会計収支を黒字とすることができ、黒字分を本部会計に返納する予定。

9. 2012 年度大阪大会の進捗状況（資料 13）

2012 年度大阪大会実行委員の町村理事より、実行委員会の体制やスケジュール等についての案が報告され、理事会としてこれを承認した。韓国・中国との共同イベントも検討する。

10. その他

1) 協賛・後援等（資料 7）

【協賛】 3 件

①日本生物環境工学会 OSAKA フォーラム 2011 「生物環境工学がめざすもの」

・日時：2011 年 7 月 9 日(土) 13:00～17:35

・会場：大阪府立大学

②生態工学会 2011 年年次大会

・日時：2011 年 6 月 15 日（水）、16 日（木）

・会場：宇宙航空研究開発機構 調布航空宇宙センター

③アグロ・イノベーション 2011（応諾はこれから）

・日時：11 月 30 日（水）～12 月 2 日（金）

・会場：幕張メッセ

2) 機関別認証評価に係る専門委員の選考結果（資料 7）

平成 22 年 10 月 7 日付の学会宛の依頼（平成 23 年度実施分の機関別認証評価委員会専門委員候補者の推薦）に対応し、3 名を推薦したことに対し、(独) 大学評価・学位授与機構より「23 年度実施分について選任を見送る」旨通知された。

【審議事項】

1. 秋の温暖化フォーラム（北海道）について（資料 8）

大政副会長からの打診により、廣田理事が北海道での開催を関係部局と調整し、講演者候補等を選定中である。会員等に広く案内を出し研究者間の情報交換の場とすること、自由な討論ができるようプログラムを考慮すること、遠方から参加しやすいスケジュールとすること、第 3 回理事会と併せて開催すること等を決定した。

2. 特別委員会の設置と担当理事およびその他役員の確認（資料9）

現体制の役員の確認を行った。今年度で任期が終了する理事の後任の選定を開始すること、永年功労表彰審査委員長の選出を進めること等を確認した。

既存の特別委員会について、学会の在り方委員会は、学会の法人化、事務の外注など総括的な問題に取り組む必要があるため、引き続き大政副会長が委員長を務める。企画講演委員会については再来年に70周年記念事業を行う可能性があるため存続させることとし、小沢理事が委員長を務めることとなった。広報・企業担当委員会は今後委員会体制とはしないが、青木理事が引き続きポスター作成を進める。ホームページ担当委員会についても委員会体制とはせず皆已理事が担当し、新サーバへの移行後、大幅な改装を行う際に体制を検討する。出版委員会は引き続き小林副会長が委員長を務め、小沢理事、北野編集委員長を委員とする。

日中韓連携・WMO対応については委員会を設置しないが、小林副会長が大阪大会事務局、編集委員会、関係会員らと連携して進める。より広義に国際連携委員会を設置することとし、小林副会長、平野理事、宮田会員を委員とする。温暖化フォーラムについては委員会体制とはせず、当面大政副会長が担当する。

3. 終身会費制度の内規について（資料10、11）

五十嵐会計理事より終身会費制度の細則案が示され、運用の方針や文章表現等について議論を行った。議論の結果を基に五十嵐理事が文言の修正を行い、メール会議で議論することになった。終身会費の会員の資格の情報である生年月日や会員歴のデータが揃っていないため、養賢堂への委託等により過去のデータベースからデータを入力する必要がある。

4. 学会の法人化について

監査で黒字の多さが指摘されたことから、学会の法人化を検討することとなった。富士原理事より公益社団法人、一般社団法人など各種団体の定義が説明された。今年度は、富士原理事が学会の在り方委員会に加わり、他学会の調査など情報収集を行うとともに、学会の事業内容を整理することとなった。

5. 大阪大会 ISAM2012 で韓国・中国とどのような企画を共同で行うかについて

小林副会長より、ISAM2012での韓国・中国との共同企画についての議論の状況や韓国側の要望について説明があった。ISAM2012において日中韓による国際共同セッションを開催し、その論文集を国際誌として出版することについては大筋で合意に達した。論文集については、**Journal of Agricultural Meteorology (JAM)**の特集号(5号)または定期発行のうちの1号として通常の形態で発行し、日韓による特別編集体制であることを明記するという方針を、小林副会長より韓国側に提案する。ただし、現在の特別編集委員制はゲストエディトリアル制(韓国側も採否決定権を持つ)と異なるなど、編集体制の整理と韓国側との合意が必要であることから、小林副会長、編集委員会、および原菌大阪大会実行委員(ISAM担当)で、具体的な問題点や、JAMのISI登録に照らしてのメリット・デメリットを検討することとした。スケジュール上、9月の第3回理事会で意思決定の必要がある。

6. 事務作業の負担軽減について（外注化）

大政副会長より、事務作業の外注についての提案があった。次回理事会までに、総務・庶務部門での事務作業の外注可能範囲を整理しリストアップすることとなった。

7. 「2010年度の高温」の取り組みについて

小沢理事より2010年度の高温の取り組みについて提案された。北海道農業研究センターでは北海道での畑作の高温被害の報告が出てくるのを始め、各方面の報告書や成果をとりまとめ、大阪大会を目途に出版物か「生物と気象」などで報告する予定である。

8. 2013年度大会の担当支部について（資料12）

北陸支部か関東支部での開催を検討することとなった。

9. その他

・第3回理事会の日程と温暖化フォーラムとの共催について

北海道での第2回温暖化フォーラム開催と併せ、第3回理事会を9月10日に北海道で開催することとなった。

・理事会年間スケジュールについて（資料12）

菅野総務理事より理事会の年間スケジュールが示された。第4回理事会についてはメール会議で決定する。

・編集委員会からの要望

北野編集委員長より、*Journal of Agricultural Meteorology* の ISI 登録に向けての方策について、積極的に意見を出してほしいとの要望があった。